

# 波佐ネット通信

No. 68 2017.1.10

## 紺屋の型紙の流通が判明

金城歴史民俗資料館で開催した「企画展『藍染の型紙展』」に昨年末、三重県立美術館の生田ゆき学芸員が型紙調査のため来館され、調査の結果収蔵品の大半の型紙が伊勢白子の作品であることが判明した。型紙の下部及び左上の欄に仕入先、仕入れ業者名が押印されていた。これによると、「嶋與」が136点、「京小紋勢州白子 形屋与兵衛」が81点、その他に「京小紋勢州白子 嶋與兵衛」、「嶋」、「仕入勢州白子 小紋形 嶋与兵衛」、「形屋弘助 仕入」、「形与」の印鑑のものが一番多く、「勢州白子 平野屋」、「泉屋仕入」、「勢州豊勘 上代」、「勢州白子 山兵」、「北勘」、「勢州白子 倉権」、「御城のまへ喜兵衛」、「勢州白子 筑木丹五郎」、「鹿」、「勢州白子 松田屋」など32点の型紙で業者の名前を見ることができる。11個の印鑑の左右に勢州白子の文字が振り分けられている。また丸印と角印が11個ずつあり、その外に判読不能の印鑑も数種類あった。

今回の調査対象点数492点の内、表示のないものが247点あり、21点が家紋や屋号の型紙で地元紺屋作製のものであった。一枚の型紙の表面に「形屋与兵衛」（角印）と裏面に「嶋與」（丸印）が、それぞれ印字されたものが23点あった。型紙の彫刻前の「熨斗」下絵（写真右中）が1枚残っていた。民俗資料館の「夜着」の「熨斗」の図柄や木綿布団の鶴と亀の2枚の婚礼布団の図柄は「筒描き染め」も併せてご覧ください。

「蝶に枝垂桜文様」の型紙は沖縄県にあるものと兄弟型紙であることも判明しています。今後、全国的な総合調査が進むと同一業者による伊勢型紙の西日本への伝播ルートが判明することが期待されます。

29年度の企画展開催までの6月30日までは、常設展「波佐地方の伊勢型紙」として、最新情報をご覧ください。

